

事務事業 No./名称	□サービス部門 環境-14 今泉クリーンセンター処理事業 ■支援部門						
主管課	環境施設課	関連課					
分野名	生活環境						
目標 (目標値)	今泉クリーンセンターの新たな利用に向けた耐震診断及び耐震設計を行い、適切な耐震工事を実施する。						
人口等のデータ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備考		
	人口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯			
運営資源状況	事業の対象者数				20年度までは「08 広域化計画の推進」		
	決算値(千円)	11,671	6,510				
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	11,671	6,510				
	人員配置数	0.4	0.5				
	人件費(千円)	3,233	4,407				
事務事業運営経費	協働のパートナー						
	総事業費(千円)	14,904	10,917				
	市民1人当りの経費(円)	84	62				
	対象者1人当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)
平成24年度以降、施設の耐震工事を実施		目標値			100%	100%	
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値			100.0%	100.0%	

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	
今泉クリーンセンター処理事業	11,671千円	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	⇒ ■A □B □C □D □E
	事業の概要	今泉クリーンセンターの新たな利用に向けた耐震工事を実施する。				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	ごみの減量・資源化に伴う喫緊の課題を解決するため、ピット前の耐震工事を実施する。		
課題解決のための取組	ごみ検査機の導入前、十分な時間を取り、ピット前の耐震工事を実施した。	取組の結果	■解決 □未解決
未解決の課題	焼却停止後の今泉クリーンセンターの在り方を決定し、それに対応するための耐震工事を実施しなければならない。		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了
	➡	②妥当性 ○		今泉クリーンセンターの建屋等の耐震工事を実施していくとともに、今泉クリーンセンターの在り方を検討していく。	課長等名
		③有効性 ○			↓
		④公平性 ○			A

